

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、全国平均と比較すると平均正答率で国語、数学、理科の全てで上回っており、日々の取組が基礎学力の定着に結び付いていることが分かる。

○定期テスト等の状況から、事実的な知識を問う問題の正答率が高いが、論理的に考えて説明する概念的な知識の正答率は低い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○教科書などの資料から読み取ったことを文章にまとめる時間が、十分に確保できていない。

○生徒同士で、授業中にお互いの考えを伝える時間が、以前より改善が見られるものの、生徒の様子からはまだ不足を感じる。

○生徒が主体的に学習に取り組むことができる授業づくりを展開するに当たり、教員の教材研究の時間が十分に確保できない。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○生徒が互いにに関わり合い、他者と協働し探究する活動が中心となるような授業革新を進める。

○生徒が「学ぶ喜び」を実感し、自ら学び続けることができる持続可能な授業づくりを進める。

○各教科での粘り強い反復学習等を通じて「基礎的読解力」を育成し、確かな学力の定着をめざす。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードSの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○定期的に校内研修会を行い、授業を参観する機会を増やす。「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」の授業の流れを全教員で徹底しつつ、自己調整、自己選択の場面を取り入れた授業を展開する。	○定期的に教員同士で指導案検討会を行う。日頃から1つの授業の中に1回程度、「文章や資料の読み取り→分かったことや考えたことを文章にまとめる→相手に伝える」という場面を設定した授業づくりを行う。	○「SDGs」及び「郷土愛」を全校共通の視点として、日々の各教科等での取組を校外学習などの事前・事後学習と結び付けて探究的な活動を行うことができるようにする。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○7学年は「環境教育」の視点から、移動教室の事前・事後学習を通して自然環境の豊かさを守るための取組について主体的に学習に取り組む。	○8学年の総合的な学習の時間で「郷土愛」をテーマに探究的な学習を行う。板橋区で生活している中で感じた板橋区に関する「課題の設定」を行い、図書館やインターネットを通じて必要な「情報収集」を行う。集めた情報をスライドにまとめ、個人で発表することを通して「整理・分析」し、グループでの協働活動を通して出てきた解決策や意見を「まとめ・表現」する課程を経て、自分の考えや課題を新たにしていく。	○長期休業中の課題として「すららドリル」に取り組ませることで、生徒の一人一台端末を有効に活用し、個別最適な学びの実現や、基礎学力の定着を目指す。
○8学年は「キャリア教育」の視点から、職場体験学習を通じて生涯にわたる学びの循環へと繋がる取組を行う。		○日々の授業の話し合い活動の場面で「FigJam」などを活用することで、より効果的な協働的な学びの実現をめざす。
○9学年は自らの国や地域に誇りをもつ「郷土愛」の視点から、3年間を通して「平和学習」を行い、平和の大切さと国を愛する心を学ぶ取組を行う。		